

## 第 11 回修了論文発表会

「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業—実践報告および事例研修を通して施設ニーズを学ぶ—事例研究発表会」が2月25日(火)に奈良佐保短期大学にて開催されます。

介護老人保健施設ロイヤルフェニックスから笠置 哲也 介護福祉士が研究発表をいたしますのでご紹介いたします。

## 排泄技術の統一化を図る

### —オムツに関する改善の取り組み—

奈良県 介護老人保健施設 ロイヤルフェニックス  
○笠置哲也<sup>1)</sup> 菅原亜弥奈<sup>2)</sup> 藪内雄司<sup>1)</sup> 川崎安子<sup>1)</sup>  
瀬古愛美<sup>1)</sup> 古川貴則<sup>1)</sup> 田中さおり<sup>2)</sup> 西村泰恵<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup> 介護福祉士 <sup>2)</sup> 看護師

【はじめに】オムツは、多種多様なものが販売されており、身体状況や生活リズム、尿量に応じて、その人に合ったものを適切に使用しなければ漏れの原因になり、利用者の不快感が生じる。今回、漏れを繰り返す利用者のオムツの当て方に注目し、職員のオムツの当て方に違いがあり、介助方法が統一されていないことが分かった。そこで、意識の統一を図るため勉強会を行ない、オムツ機能の知識と、個別の身体状況や、排尿感覚に合わせた適切なオムツの使用が出来るよう、取り組みを行ったので報告する。

【方法】1) オムツ製品のメーカーに、製品の特性や機能を生かした使用方法について講習を受けた。そして、研修内容を文章化し、全職員に伝達した。2) 全職員に勉強会を実施し、オムツとパットの構造と機能を説明し、オムツの当て方の悪い例とそのリスクを説明した。また、職員同士でオムツを当て、正しい当て方を解説しながら、相互に確認し合えるような内容で実施した。3) 夜間のオムツ交換では、0時のオムツ交換は尿量の多い人・下剤を服用し排便回数が多い人などは、従来通りオムツ交換を行い、それ以外の人には、夜間に安眠して頂く為、0時のオムツ交換を減らした。

【結果】漏れを繰り返す利用者の、汚染衣類の更衣や寝具の交換が減り、時間にゆとりが出て、ナースコールに早く対応出来るようになり、業務の効率化に繋げることができた。

【考察】福野<sup>1)</sup>によると、「オムツ使用時の注意点として、尿量に合ったパットを使用することとし、適切に使われていないと、漏れの原因になったり、身体の動きの妨げになる。」と述べている。メーカーからの講習を受け、正しいオムツの当て方をイラストと写真に示し、全職員に伝達し、業務上の専門的知識の統一の第一段階につながった。しかし、文章を読んだり、視覚からのイメージ学習では、チームからの一方的な伝達方法になってしまい、実際に職員がどの程度理解できているか確認できない。言葉や、紙面だけで説明するのではなく、実際に体験し、実践してもらう事で、技術の統一を図ることができたと考える。しかし、これまでと同様に、利用者の排泄状況を捉えることなく、従来と同じ感覚でオムツ交換している場面が見られる。心理学でも「人間の脳は忘れる様にできている」と言われるよう、様々な取り組みを行ない、伝達を徹底しても、時間が経つにつれ、勉強会での伝達内容が薄れてしまう。適切なオムツの使用法の意識を継続させるためにも、利用者の排泄状況や、尿量にあったパットを使用できているのか、職員同士、情報を共有する必要がある。取り組み前は、就寝時の20時と、0時、5時に交換していたが、オムツの機能を理解し、適切な当て方を実行した事で、0時の交換を行わなかったことによる、夜間の尿漏れは、増加しなかった。また、必要以上のオムツ交換により、安眠を妨げることはなかった。そして、朝のトイレ誘導時、オムツ交換時には、必ず保湿剤を使用し、陰部洗浄を行い、保湿剤を含ませた清拭タオルで叩き拭きを行なうよう徹底したことで、皮膚のトラブルの増強はなく、業務改善前と変わらない状況を保つことができた。

【おわりに】排泄は、生命を維持するために欠かせない生理機能である。それを他者に委ねることは、尊厳をおびやかすことにも繋がる。また、過剰なケアを行うことで、睡眠障害から転倒などの誘因にもなりかねない。一人一人の、排泄状況を把握し、適切なオムツの使用を心がけ、これからも、統一した排泄ケアを継続していきたい。

【引用文献】1)福野初夫：介護技術総まとめ(もう一度根拠からケアを学んでみよう)。おはよう 21 第 22 巻(第 5 号)：66 項，2011 年。